

美しい菜の花畑は21世紀の油田化構想 [佐賀県・伊万里市]

情報収集官署名：九州農政局 唐津統計・情報センター（伊万里庁舎）

☎ 0955-23-3095

〔取組主体〕	
名 称	NPO法人 伊万里はちがめプラン
取組の範囲	伊万里市
開始年度	平成13年度
〔補助事業〕	
交付主体	国
補助事業名	中小企業地域雇用創出特別奨励事業 ・ 菜の花プロジェクト事業
計画名	菜の花プロジェクト

1 取組目的と概要

（目的）

休耕田を利用した菜の花栽培で収穫したなたねから食用油、バイオディーゼル燃料へ資源のリサイクルを推進し、資源循環型社会の確立を目指している。

（概要）

伊万里市のNPO法人伊万里はちがめプラン（病院、飲食業など約60事業所及び一般世帯約100名で構成）は、平成13年度から地元農家・一般市民と協力して、生ごみから作ったたい肥でなたねを栽培し、なたね油を搾り、その廃食油を回収しバイオディーゼル燃料に精製している。

精製装置については、12年度に「菜種油搾油機」を雇用能力開発機構佐賀センターから、13年度に「バイオディーゼル燃料製造機」を地球環境基金から、それぞれ助成を受けて導入した。

なたね栽培では、同市古賀地区の休耕地において、生ごみたい肥プラントで生産したたい肥でなたねの栽培を開始し、収穫したなたねから、なたね油を生産し、飲食店や学校給食・老人ホーム等に提供する一方、使用後の廃食油を回収し、バイオディーゼル燃料（生産量100ℓ/日）に精製し、たい肥化プラント車両や同プランの広報車・農耕車・公用車等の燃料として広く活用し、資源のリサイクルを図っている。

また、同取組には地元農家による田畑の提供と肥培管理作業の協力を得ており、種まき・苗の移植・収穫の作業には市民ボランティアや地元小学生（約60名）が体験学習として参加するなど、農業者と市民が協力し、地域一体となった資源循環型社会確立の取組を推進している。



＜バイオディーゼル燃料広報車＞

2 取組の効果

（効果）

16年現在、なたね栽培の協力農家数20名、栽培面積100aとなり、廃食油の回収量も増加している。この廃食油をバイオディーゼル燃料として再利用を図ることにより、資源のリサイクルや二酸化炭素排出量の削減など、環境への負担軽減につながった。

また、14年度から毎年「九州菜の花サミット in 伊万里・菜の花祭り」などを開催し、市民に資源循環による環境保全の大切さを訴え続けており、地元農家と一般市民の交流が進み、資源循環型社会の重要性の認識を深めることができた。

3 現在の課題と今後の展開方向

（課題）

資源のリサイクルをさらに拡大するため、バイオディーゼル燃料の生産能力を現

在の1日100ℓから200ℓに増産するとともに、販路の拡大に取り組む必要がある。

（展開方向）

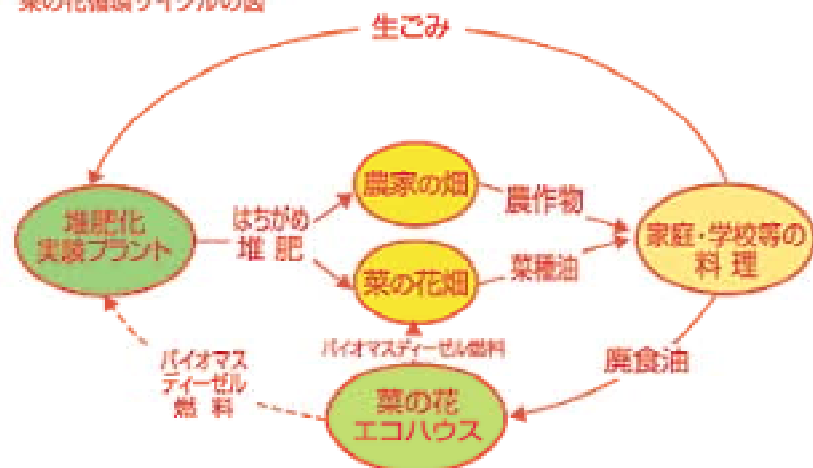
バイオマス資源活用に関して、県、市などに提言し、近い将来、地域全体が有機資源を有効活用し、資源循環社会を構築するように「バイオマスタウン構想」へ発展させたい。

「美しい菜の花畑は21世紀の油田化構想」の施設概要

施設名称	菜の花エコハウス	設置主体	伊万里はちがめプラン
運営主体	伊万里はちがめプラン	施設整備費	12,000千円
主な設備	・菜種油搾油機 ・菜種播種機 ・廃食油バイオマスディーゼル燃料製造装置	稼働状況	1日の稼働時間：5時間 年間の稼働日数：208日

【施設のシステムフロー】

菜の花循環サイクルの図



菜の花エコハウス



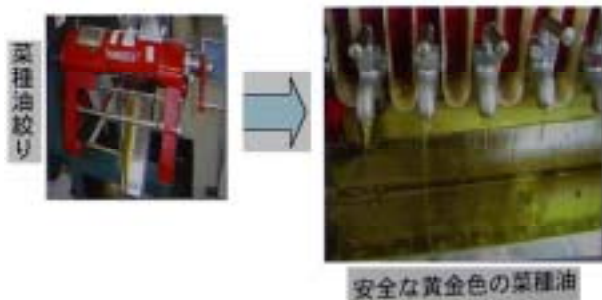
バイオディーゼル燃料製造装置



バイオディーゼル燃料トラクタ



菜種搾油機による搾油



製品（バイオディーゼル燃料と菜種油）比較



バイオマスの回収と再利用の流れ

バイオマス名	発 生 源	距離	発 生 量	収集・運搬方法	施設処理能力
廃食油	老人ホーム	13.5km	60 ℓ / 月	自らが車両で搬入	100 ℓ / 日
	飲食店等事業所	7.7km	760 ℓ / 月	自らが搬入と回収	
	一般家庭	5.5km	20 ℓ / 月	回収	
再生バイオマス名	生 産 量		再生バイオマスの利活用先		
バイオディーゼル燃料	100 ℓ / 日		たい肥化プラント車両や同プランの広報車・農耕車・公用車等の燃料として広く活用している 自家消費70% 会員へ販売30%		